

国史跡 京極氏遺跡 上平寺城跡

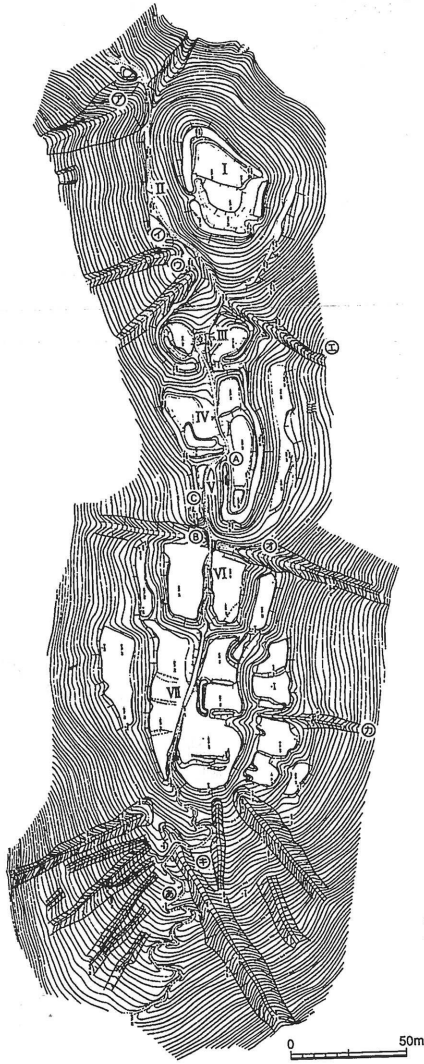
京極^{きょうごく}高^{たか}清^{きよ}が山麓に館を構えたときに、戦に備えた「詰^{つめ}の城」として整備したのが上平寺城^{じょうへいしじょう}です。北国脇^{ほっこく}往^わ還^{かん}を押さえる要地にあることから、高^{たか}清^{きよ}築城以前にも砦^{とりで}あるいは寺院遺構があったと考えられます。

大永3年（1523）の家臣団のクーデターにより、京極氏館は北近江の守護館としての機能を終えますが、上平寺城は東山道（中山道）と北国脇往還を見下ろすことができ、北近江と濃尾平野を一望できる絶好の拠点であったことから、近江と美濃の「境目の城」として機能していくことになります。

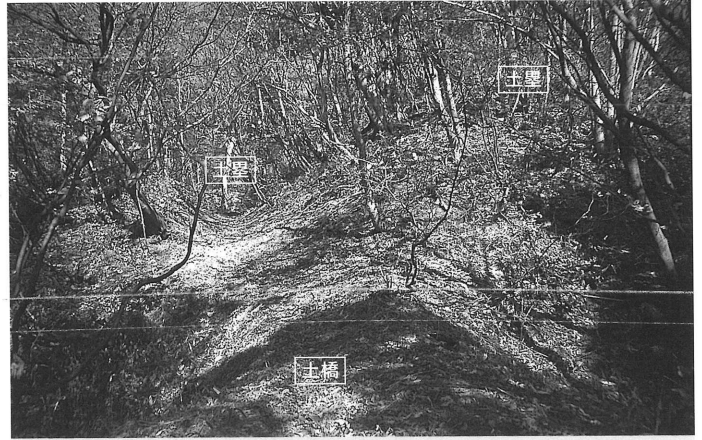
とくに、元龜元年（1570）、浅井長政は織田信長の侵攻に備えるために、朝倉氏の築城技術を導入して大規模な改築をおこなっています。しかし、城番であった堀秀村と樋口三郎兵衛らが信長に内応してしまったために、上平寺城は戦わずして開城となり、以後廃城になったと考えられます。

現在見られる遺構はこのときのもので、尾根を断ち切る巨大な堀切や、放射状に堀を巡らす畝^{うね}状^{じょう}堅堀^{たてぼり}により周囲を守り、尾根上に土塁で囲んだ曲輪^{くるわ}を配する典型的な中世の山城の姿をみることができます。





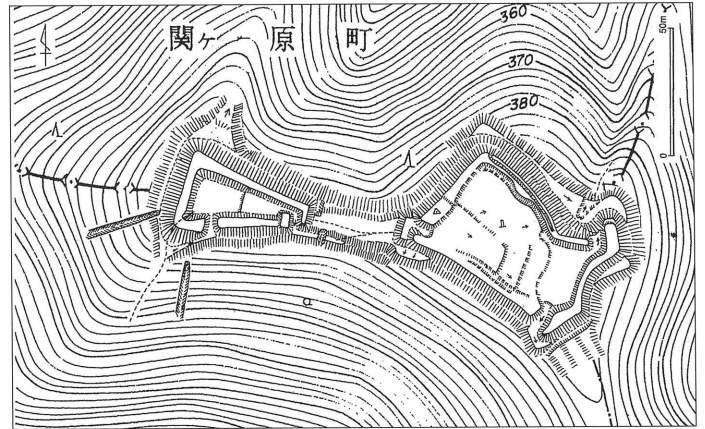
上平寺城跡平面図



上平寺城跡虎口

城跡の見どころのひとつは、上平寺城中心部への虎口（入口）です（V）。細い土橋で堀切を渡ると、正面と側面を厚くて高い土塁で囲まれた枡形に入り込み、城内からの攻撃にさらされることになります。

元亀元年（1570）、長政が信長の近江侵攻を阻止するために、朝倉氏の援助をうけて改修した遺構です。



長比城縄張り図

たけくらべじょうあと 長比城跡

近江と美濃の国境で東山道（中山道）を押さえる要衝にあります。信長から離反した浅井長政は信長の近江侵攻に備えるために、上平寺城（刈安尾城）とともに朝倉氏の築城技術を導入して改築をおこなっています。しかし、城主堀秀村が戦わずして降伏してしまいました。

現在、虎口や土塁が良好に残されていることを確認できますが、これらの遺構は戦国時代後半の築城を示しており、『信長公記』元亀元年六月十九日条にみえる「たけくらべに要害を構へ候」という文献記録とも時期が一致します。



長比城へのアクセス

JR柏原駅から中山道を東へ徒歩約30分。左手にある神明神社の鳥居が登り口。山腹の秋葉神社経由で尾根伝いに登ること、約30～40分。



上平寺城へのアクセス

JR近江長岡駅下車。交通機関は便が悪いので、タクシー利用約15分。上平寺バス停から京極氏館まで約500m。ここから山城まで徒歩1.5km約50分。弥高集落から弥高寺を経由する道もある。

国史跡 京極氏遺跡（上平寺城跡）

指定年月日 平成16年2月27日
所在地 滋賀県米原市弥高・藤川

長比城跡

所在地 滋賀県米原市柏原・長久寺

米原市教育委員会

滋賀県米原市長岡1206番地 TEL.0749-55-8106

平成19年度 市内遺跡保存活用事業